

300  
44

昭和新選碑法大觀  
第三輯第十一卷

歐虞行草帖

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



300  
44

歐虞行草帖





新昭

選味

碑

法

帖

大

觀

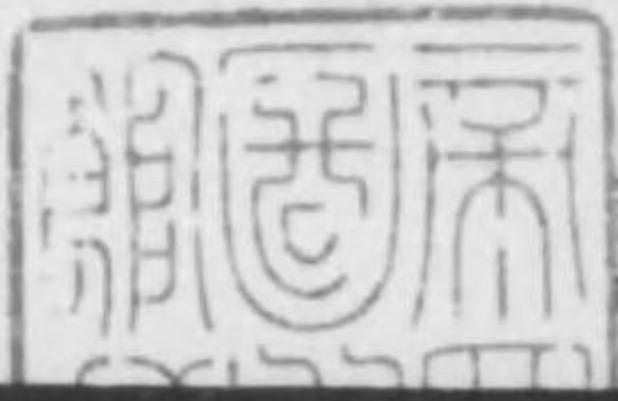
見



第三輯  
第十一卷

歐陽詢行草諸帖

卜商帖



晉歐陽詢書

卜商讀書畢見孔子  
子何為於書商曰書之  
論事昭如日月之代明

張翰字季鷹吳郡人有  
清才善屬文而縱任不拘  
時人號之爲江東步兵後  
背同郡顧榮曰天下紛紛

誰如來辰之借行商所以  
於夫子有志之於心弗敢忘  
也

難未已夫有四海之名者  
亦退良難身本山林間人  
無皇於時子善以明防前  
智慮後榮執其悅然

初因見秋風却乃思吳中  
菰菜鱸魚遂合駕而歸

歐陽率更書



一勞終公恠而向中國以  
書禮樂法律為政然  
尚睦亂今戎夷無此為治

不三勤乎由余咲日此乃中  
國所以亂也自上聖黃帝  
作為禮樂法度身以先  
之僅乃小治及其後世日

漸驕情阻法度之威  
上下交爭以相蔽敎令戎  
不從上含淳德御下下恣  
恣信事上一國之政於如一

身

漢文時丞相申屠嘉入  
朝見鄧通在上傍有怠  
慢禮嘉進曰陛下愛幸



羣臣則富貴之至於朝  
廷之禮不可以不肅上曰君  
勿言吾私之

殷紂為長夜之  失日

不知甲子使問於箕  
子、謂其徒云為天下主  
而一國皆失日天下危矣一  
國失之而我獨知我其各

仲丘夢奠七十有二周王  
九節俱不滿百彭祖資  
以導善撫重任性裁過

聖遂辭以醉



盈教終歸冥滅無有得  
停住者未有生而不老  
而不死形歸土墓神

還所受痛毒平酸何  
可熟念善惡報應如影  
隨形必不差二

貞觀六年仲夏中旬初偶誌其  
 為猥辱見示諸家書編以看  
 河以頓醒滯思為甚嘉妙  
 敢為以肩至於興歎耳  
 因書此叙于其後渤海郡率與

今歐陽詢記人  
 靜而思之勝李其後過此氣力  
 弱猶未愈若何為至連附書  
 少向健之以此寄信與歐陽詢呈  
 一月中得足下書知道體平

安者氣少尚未結平復極欲知  
君等信息比夏散不可具言  
不復歐陽詢頓首

草書千字本斷本

以吹孔惟足初月三末走枝  
交交枝系切磨義我現仁為  
隱州造以弗離其家以隱志  
款涉悲鵲性靜情逸心采勿  
神夜守出士心海逐物意如

臣持雅素好學自應為之  
華友在一曲二氣首為之向洛  
浮海披涉言之廣譽共身樓觀  
飛志之固為之亦歎者孫仙雲  
丙美以乃原甲帳室物轉轉道

以席鼓瑟以筆升仙階  
矣轉趨星君通之廣內也  
素明光集煥典之來之矣  
枯高難察深去壁始不疑  
物相諸徒松之戶書以孫

忠信十空高冠洛城延叔  
振海 祿乃之由东考江野  
榮乃我之云物解到銘陸溪  
伊尹佐时河海卷之七曲并  
沫且孰学书公之通之通弱

挂似孩回淫有直说中云书二  
後又密勿力十二是字与林心  
更霸始魏困横况逢城编  
沫士之恒河有通别法物矣  
如西之嘉物用耳元行





勉之社柱少新深感之於  
枕極新之也死林重果  
當亦見棟海孤後通亦  
不更決點之當亦果古  
教用道道似真亦在感

欽於法所之應周美抽條  
柳根晚翠枝相半月涼  
安留度年親眺極物  
凌度律而決讀歌亦  
雲上和易移修名

其體法較之口尤物節  
身之氣血底耗精氣神  
老少異其性也  
惟房執扇與德頭物性  
書賦夕二味以筆象床弦  
歌

酒後接杯未始鳴手  
故之  
怡淡且底烟及扇  
意之體義再收  
林探首安底  
担以執起以深  
流流接接

詠の詩は、漢、宋、元、明、清、補、終、  
後、二、方、中、對、遠、丸、終、現、現、  
帳、業、後、果、初、以、日、初、終、終、  
初、終、並、方、佳、妙、毛、格、河、安、  
三、終、終、學、主、之、安、終、終、終、

詠の詩は、漢、宋、元、明、清、補、終、  
後、二、方、中、對、遠、丸、終、現、現、  
帳、業、後、果、初、以、日、初、終、終、  
初、終、並、方、佳、妙、毛、格、河、安、  
三、終、終、學、主、之、安、終、終、終、

虞世南行草諸帖

積時帖

虞伯施積時帖

積時似心非翰  
歲陰寒重以水清  
以事事之暇故有少之



世少同義三氣亂白甚但  
有困以乃未正磨接  
海東海海信深嘉如  
德川使然兩法如子

懸其近首似貝子冬七  
具免朽都大不凍寒  
一風之世者

文唐故汝南公主墓誌銘  
公主諱字隴西狄道人

皇帝之第三女也天潢疏濶  
浮夜光之采若木分暉  
朝陽之色故能聰穎外  
矚訛範生知尚觀箴於  
女史言容成

十二月廿五日

新製老江姑亦



則猶習祀於公宮至如怡色就養佩  
帙晨省敬愛兼極左右無方加以學  
殫錦業藝無弊年秩令問芳猷儀  
刑閏閏八年六月有詔封汝南郡  
公王錫重理瑞祀崇湯沐車服徽  
辛事優前典屬九地維維四星

潛曜毀瘠載形哀癉過祀前  
纒不齧壚酪無滋灰陪亟移陵塋  
浸遠雖容服外變而沈憂內結不  
勝孺慕之哀遂成傷生之性天道  
祐仁矣其真漢以公貞觀十年十月

丁亥朔十六日

世十南從去月廿七、八、去子一兩日行上  
 脚更痛遂不朝會至今未好  
 侍時向本者猶不入响異少  
 望可自力脫降訪回正為  
 虞世南詔

歐虞行草帖解説

歐陽詢、虞世南、褚遂良が初唐三大家としてその書名の高きこと、後世書道の最高指針として、喧傳されてゐることは、今更言を俟たぬ所、而かも楷書に於いて、特にその重要價値を認められてゐることは周知の事實である。而るにその行草体に至つては、楷書の如く、完備せる法書が比較的尠く、而かも公刊されてゐる諸帖も甚だ僅少で、自然書道家の關心も淺い譯で、吾々書道人としては研究上常に遺憾に堪へなかつた次第である。元來楷書の力量と行草の力量とは比較的並行するもので、あれだけ書道人から緒、虞、歐の楷書の書道的價値を高揚されてゐるのだから、その行草の研究的價値の偉大さは、推し量かられる譯であるが、只だその研究資料の尠いこと、その法書の完好でないが爲め、研究が普及されなない譯である、茲に於いて各種彙帖中に輯刻されてゐる歐陽詢、虞世南の各種行草法帖を一帖に集めて、初唐行草研究の不備を補成せんが爲め生れたのが、この歐虞行草帖である。

○史事帖

歐陽詢が歴史に關する事柄を書いたもので、古來歐陽詢の行書の代表書として喧傳されてゐるもので、各彙帖中に輯刻され、歐陽詢の行書研究上缺くべからざる参考法書である。  
 本書に收むるものは卜商帖、張翰帖は快雪堂帖より、次の史事帖は、滋蕙堂帖より、仲尼夢奠帖は玉虹鑑眞帖のものより、とつて茲に現代に遺されてゐる史事帖を網羅した譯である。



行書法書中最も勁峻刻勵、凛として武庫の矛戟の如く痛快限りなき法書である、嵯峨天皇の宸翰と傳へられる李嶠詩と一脈相通する書である。

### ○行書帖

これは淳化大觀などの集帖に收められてゐる唯一の行書である。刻法は前者の如く完好を缺き、幾分研究的價値に遺憾あるとはいへ、僅少な歐行書としては矢張り見逃すべからざる参考筆蹟である。本帖に收むるものは大觀帖のもので淳化に比して筆路が判然し精采のまさるものである。

### ○草書千字文

歐陽詢の草書に至つては今に残る筆蹟は殆んど皆無といつてよい位である。又古來の各集帖にも殆んど之を收載してゐない。この斷本千字文は、實にその唯一といはねばならぬ實に貴重な法書である。峻勁極まりなき、歐陽詢独自の筆力が草書中に躍動して痛快極まりなき珍品である。

### ○積時帖

餘清齋、辨岡齋、其他各集帖中に集刻され古來より有名な法書である。虞世南の行草は歐褚に比して更に妙く、この帖の如きも或は米元章の臨書ならんこの説もあるが、研究上非常に珍重すべきものたるは言をまたない。下筆天馬空を行くが如しと古人も賞揚してゐる。本書のものは餘清齋帖より轉印したものである。

### ○汝南公主墓誌

虞世南の行書で、汝南公主墓誌の草稿である。辨岡齋、經訓堂其他各集帖中に輯刻され、古來より有名な法帖として珍重されてゐるものである。

近年この眞蹟が出来、その寫眞が公にされ上海よりはそのコロタイプ版も公刊されてゐる。本帖に收むるものは經訓堂より轉印せるもので、寫眞と比較研究するも亦意義が深い。

### ○左脚帖

汝南公主墓誌も、積時帖も、ともに虞世南の筆蹟としては種々異論のあるものであるが、この左脚帖は古來定評のあるもので、虞世南の行書としては、實に唯一無二の参考法帖である。大觀帖中より轉印したものである。

## 歐陽詢行草諸帖釋文

### 史事帖

ト商帖

ト商讀書畢見孔子孔子曰商何爲於書商曰書者論事昭々如日月之代明離離如參辰之錯行商所聞於夫子者志之於心弗敢忘也

張翰帖

張翰字季鷹吳郡人有清才善屬文而縱任不拘時人號之爲江東步兵後謂同郡顏榮曰天下紛紜禍難未已夫有四海之名者進退良難吾本山林間人無望於時子善以明防前以智慮後榮執槍然翰因見秋風起乃思吳中菰菜鱸魚遂命駕而歸

□勞種公怪而問中國以詩書禮樂法律爲政然尙時亂今戎夷無此爲治不亦難乎由余咲曰此乃中國所以亂也自上聖黃帝作爲禮樂法度身以先之僅乃小治乃其後世曰漸驕侈阻法度之威上下交爭以相篡殺今戎不然上舍淳德御下下懷忠信事上一國之政猶如一身

漢文時丞相申屠嘉入朝見鄧通在上傍有怠慢禮嘉進曰陛下愛幸群臣則富貴之至於朝廷之禮不可以不肅上曰君勿言吾私之

殷紂爲長夜之飲失日不知甲子使問於箕子箕子謂其徒云爲天下主而一國皆失日天下危矣一國失之而我獨知我其危矣遂辭以醉

### 夢奠帖

仲尼夢奠七十有二周王九齡俱不滿百彭祖資以導養樊重任性裁過盈數終歸冥滅無有得停住者未有生而不老老而不死形歸丘墓神還所受痛毒辛酸何可熟念善惡報應如影隨形必不差一

### 歐陽詢行書

貞觀六年仲夏中旬初偶詣蘭蕙猥辱見示諸家書編得看尋可以頓醒滯思各甚嘉妙今昔孰爲比肩至於興歎耳珍々重々因書此叙于其後渤海郡率更令歐陽詢記之

靜而思之勝事莫復過此氣力弱猶未愈吾君何當至速附書必向饒定須寄信立具歐陽詢呈  
五月中得足下書知道體平安吾氣力尙未能平復極欲知君等信息比憂散々不可具言不復歐陽詢頓々首々

### 虞世南行草諸帖釋文

#### 積時帖

積時傾心非翰墨所具歲陰寒重願恆清和政事之暇故有賞心世南衰羸自甚但有困劣未近展接增其潛泣深敬明德須便宜露數字慰其延首賢子書具見朽弊不陳萬一虞西南呈

十一月廿五日

若有新製願能示

# 大唐故汝南公主墓志銘並序

公主諱字西狄道人。

皇帝之第三女也。天潢清流，潤圓折浮，夜光之采，若木分暉。穠華照朝陽之色，故能聰穎外發，閉明內映。訓範生知，尙觀箴於女史，言容成則，猶習禮於公宮。至如怡色就養，佩粉晨省，敬愛兼極，左右無方。加以學殫，綈素藝兼，鞶紱令問，芳猷儀形，闔閭□年□月，有詔封汝南郡公主。錫重，珪瑞禮崇，湯沐車服，徽章事優。前典屬九地絕維，四星潛曜，毀瘦載形，哀號過禮。齒續不雙，塌酪無噬，灰瑤丞移，陵塋浸遠。雖容服外變，而沈憂內結，不勝孺慕之哀，遂成傷生之性。天道祐仁，奚其冥漠。以今貞觀十年十一月丁亥朔十六日（下缺）。

## 左 脚 帖

世南從去月廿七八日一兩日行脚，更痛遂不朝會。至今未好，亦得時向本省，猶不入內。異少日望，可自力脫降訪問，願爲奉答。虞世南誌。



有所權版

昭和十三年十二月十五日印刷  
昭和十三年十二月二十日發行

新刊 佛法帖大觀 第三輯第十七卷  
歐 虞 行 草 帖

編者 辻 本 勝 己  
發行所 大 潤 善 吉

印刷所 玉石社 玉木印刷所  
發行所 東京 寧樂書道會

300

44

終